

令和4年 新春メッセージ

町民の皆様、明けましておめでとうございます。

お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。久しぶりに、ご家族、ご親族が顔をあわせて賑やかに過ごされている方もいらっしゃるのではないか、と思います。

昨年も新型コロナの影響を大きく受けた一年となりました。町民の皆様におかれましては、ご苦労、ご心配が多かったこととご推察いたします。10月以降は感染も落ち着いてきて少しずつイベントの開催や人の動きも出てきましたが、一方では、オミクロン株の国内感染も広がりを見せ始め、今後警戒していく必要があります。引き続き、感染予防の継続をお願いいたします。

昨年は、町としましては、新型コロナ対策を最優先事項として、ワクチンの早期接種をはじめ、外出控えが続く中での健康対策やオンライン帰省、「みさと。ポイント」による町内飲食店や宿泊業の利用促進キャンペーン、そして子育て世帯への臨時特別給付金の12月中の10万円現金一括支給など、目の前の課題に対しスピード感を重視して取り組んできました。

そして、「軌道に乗せる年」と位置付けて、アフターコロナの時代も見据え、3つの重点分野「1 健康で安心な町民の暮らしの充実」「2 美郷町の強みや新技術等を活かした取り組みの進展」「3 活動人口、交流人口、定住人口の拡大」を掲げて、様々な取り組みの足場を固めてまいりました。

現在、ワクチン接種の進展などにより、コロナ禍にあっても大きな支障のない社会・経済活動を行っていこうというウイズコロナが進んでいます。美郷町でも、感染予防対策を採ったうえで、成人式や産業祭など、一部の行事、イベントを再開し始めています。

今年は、新型コロナウイルス感染症の状況をにらみながら、これまで取り組んできた事業や構想が芽を出し、実を結び始める「前へ進める年」と位置づけて、細心かつ大胆に取り組みを強化し、推進していきたいと思います。

まず、新型コロナ対策では、原則8か月以上の方を対象に3回目のワクチン接種を行います。1月下旬以降、順次接種券をお送りし、2月中旬以降の接種開始を予定しています。

また、コロナの影響で外食産業の需要が大きく落ち込み、米価が大幅下落していることにつ

いて、農業に携わっていらっしゃる皆さまにおかれましては、大変ご心配のこととお察しいたします。国や県の動向をにらみながら、町として緊急の農業者支援策ができないか、速やかに検討をしたいと考えています。

安全安心のまちづくりでは、昨年方針決定をした港地区防災集団移転事業の詳細設計に着手し、令和6年度内の移転完了を目指して進めていきます。また、今年度江の川下流域の河川整備のために10年間で250億円の過去最大規模の国家予算が配分されました。国や県と密接に連携を図り治水対策を進めてまいります。そして、内水被害対応のためのポンプの増設、ハザードマップ利活用講習会の実施など、あらゆる手段で災害に強いまちづくりを進めていきます。

また、様々な不便の解消を目指して、新しい取り組みも推進してまいります。IP告知端末を活用して、オンライン診療の実証実験や、スマホを持たない方も簡単に遠方の親族とテレビ電話ができるオンライン帰省などを行っています。また、定額乗合タクシーや最新型電動カー無料貸出しの実証実験も実施中です。

さて、昨年11月に、5年に一度行われる国勢調査の結果が発表されました。美郷町は5年前と比べ人口が545人減少し、減少率11.1%は県内19市町村の中で最大となりました。

町の衰退に拍車がかかっている現状があらためて浮かび上がり、私は、町長として、町の行く末に強い危機感を抱いています。

町の活性化を実現するには、地域や住民一人ひとりが生き活きと協力して活動することが何よりも大切ですが、一方で内輪の頑張りだけでは限界があります。積極的に町外から人や企業・団体などを呼び込み、その力を利用して町の活性化に結び付けることが必要不可欠です。

今まで大丈夫だったからこれからも大丈夫ということはありません。町が消滅していつてしまわないために、町の明るい未来のためにも、町外の力を呼び込む施策にもより一層力を入れてまいります。

昨年4月に開設された麻布大学フィールドワークセンターでは、12月に生命・環境科学部環境学科のフィールドワーク実習が実施され、約20人の学生さん方が初めて来町されました。新型コロナが落ち着いていけば、今年は学生さんや先生の来町が増える見込みです。

2023年度にはフィールドワークセンターを組み込んだカリキュラムの編成替えが予定されており、以降は、たくさんの学生さんが入れ替わりながら美郷町に滞在されるようになります。自然や生き物が好きな都会の若者との交流を町の活気につなげていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

美郷バレーでは、昨年11月の神奈川県大磯町との連携協定締結により、これまで計12の産官学民の企業・団体と協定を結びました。

獣害対策はもちろん、幅広い分野で専門知識や先進技術を活かした実証実験や商品開発などが始まっています。町の課題解決に役立つ取り組みを進めることで、町の活性化につなげていきたいと思っています。

旧粕淵村役場を改修して開設したサテライトオフィス「みさと。ネスト」は、テレワークやワーケーションといったコロナ禍で生まれた新しい働き方に対応した施設です。都会の企業の地方進出を受け入れる取り組みとして注目され、今後事業者誘致に力を入れていきます。

2030年国民スポーツ大会のカヌー競技の美郷町開催決定を受けて、来年度はカヌー競技場整備の調査・設計に着手し、カヌーのまちづくりに向けた取り組みを進めていきます。

バリについては、マス村との交流、「ガムラン楽団」の結成、ふるさと納税でのバリグッズ取り扱い開始、美郷町ビジネスプランコンテストでのバリ島情報発信企業の受賞、など様々な取り組みで大きな注目を集め、「バリの町」としての認知度が高まっています。今後、関係人口、交流人口、観光人口の拡大に向け、取り組みを強化していきたいと思っています。

新型コロナの影響による入国制限で、現在技能実習生の来町が進まない状況となっています。現在、制限解除に備えて準備を進めており、来町された際には、事業者の人手不足の解消に加えて、町民の皆さんにも参加いただいてバリ文化の振興・普及にもつなげていきたいと思っています。

さて、町内の商工業に目を向けますと、特に飲食や小売など商業の疲弊は顕著であり、農業などの関連産業も含めた商業振興に向けて、抜本的なてこ入れを図っていく必要があります。

一方で、先ほど申し上げましたように、今後は美郷バレー関係者の来町や企業進出、麻布大学の学生さん達の滞在、そしてバリや美肌県美肌町などの取り組み進展による観光客など、町

外から訪れる人の増加が期待できる状況にあります。

美郷町の商業活性化・賑わい創出のため、町の中心地である粕渚中心市街地の再開発の検討に入りたいと考えています。町民の利便性の向上はもちろん、町に賑わいを創り出し、町の魅力を向上させていくべく、今後、町民の皆さんの声を取り入れながら、関係各所と検討を本格化させていきます。

現状は非常に厳しい状況にありますが、これまで進めてきた取り組みの芽が出始めており、将来の希望の光が見えてきています。

私の町長就任以来のビジョンである「活気あふれる明るい町」と「町外と活発な交流のある町」の実現に向かって、今年を「前へ進める年」と位置付けて、全力で取り組んでいきたいと思いをします。

結びに、本年が町民の皆様にとって健康で幸多き一年となりますよう、ご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和4年1月1日

美郷町長 嘉戸 隆